



頑張れ！未来のなでしこジャパン

6月12日(水)、エルフェン狭山マリの佐藤萌さん(写真左・入間川中学校3年)と坂倉若菜さん(同右・入間中学校3年)が、狭山市長を訪問し、県女子ユース(U-15)サッカー選手権大会優勝と全国大会出場の報告をしました。2人は、「目標にしている選手目指してがんばります」と、これからの抱負を語りました。



身振り手振りでコミュニケーション

6月11日(火)、南小学校にアメリカのNPO団体「ヤングアメリカンズ」36名が来校しました。これは、ネイティブアメリカンと触れ合う中で、自分を表現したり、思いやりの気持ちを育んだりすることを目的とした取り組みで、同校での開催は2回目になります。児童たちは、パワフルなダンスや手話を交えた歌などを1時間以上行い、みんな汗びしょりになりながら、「ダンスの仕方を日本語で聞いても何とか通じたよ」、「日本語を教えてあげたら、とても喜んでくれたよ」などと声を弾ませ、笑顔で答えてくれました。



健やかな育ちを応援 地域子ども教室

放課後や週末に、自然体験やスポーツ、学習などをとおして、地域の大人が子ども達の育ちを応援している地域子ども教室。今年度、新たに「いるまのっこ放課後教室」が加わり14教室になりました。

5月24日(金)に入間野小学校の校庭などを利用して初めて開催され、子どもたちは、地域の方々とのグラウンドゴルフや、学年が違う友だちとサッカーをするなど、楽しい時間を過ごしました。



しっかり根づいて、きれいに咲いてね

6月8日(土)／ペコニアを植える集い(ペコニアロード)

新狭山一丁目自治会や川越狭山工業会などの皆さん209名が参加して、新狭山駅から南大塚駅の線路沿いを清掃し、ペコニアの花を植えました。



ロープの波を超えて、ざぶーん!!

6月15日(土)／親子体操教室(農村環境改善センター)



子ども達が音楽に合わせてながら、ポールやロープを使って楽しく体を動かしました。一緒に参加しているお母さんもストレッチでリフレッシュ!

狭山の今昔物語 Vol.27 — 狭山台団地 —

昭和40年代初め、10万人都市を目指していた狭山市が取り組んだのが日本住宅公団によるニュータウンの造成でした。103haの土地に下水道を完備し、自然林豊かな公園をはじめとする緑地帯を設けるなどした同団地は、50年3月に入居を開始。同年12月に10万人都市の仲間入りを果たしました。



けやき通りの狭山台三交差点。集合住宅が次々に完成。昭和49年。



緑鮮やかな木々が団地を囲み、整備された歩道は散歩に最適。

さまざまな国の料理も楽しみの一つ!

6月16日(日)／あじさい祭り並びに国際交流の集い(中原公園)

雨に濡れたあじさいに囲まれて祭りはスタート。踊りや音楽のアトラクションに続き、狭山市国際交流協会の日本語クラスが、東日本大震災の復興支援ソング「花は咲く」の詩を朗読、合唱しました。日ごろの勉強の成果を披露し、復興への願いを届けました。



堀兼中学校吹奏楽部と新狭山小学校音楽クラブの初合奏「聖者の行進」

減災に向けて「みんな」で考えよう

6月22日(土)／地域のつながりと支え合いを考える集い(市民交流センター)

350名の皆さんが、パネルディスカッションとワークショップを通じて「震災」と「地域の絆」について考え、語り合いました。震災時の地域での助け合いや東日本大震災からの復興に向けて自分たちにできる取り組みの必要性を改めて強く感じていました。



あなたが写っていませんか？広報さやまに掲載した写真は、広報課で撮影したものでしたら無料で差し上げます。広報課までご連絡ください。

2600株のハナショウブがまつりを彩る

6月22日(土)・23日／花菖蒲まつり(智光山公園)

梅雨の中休みとなった週末、見ごろを迎えた花菖蒲園に市内外からたくさんの家族連れやカメラマンが訪れ、約6千人の人出でにぎわいました。周りには模擬店が並び、狭山茶の野点呈茶も行われ、花とともに来園者をもてなしました。



白や紫色の花が人々の目を楽しませてくれました

団地で作れる梅干しの技

6月14日(金)／やまねさんちの梅干しづくり教室(狭山台公民館)

狭山台地区の主婦、山根静子さんが塩のみのシンプルな梅干し作りを伝授しました。樽やカメに南高梅と塩を交互に詰め、梅雨明けを待って天日干し。干物用のネットを使って団地でも梅を干せるアイデアに参加者も感心していました。



できあがり楽しみ。さらに1～2年寝かせるとよりまろやかに